

## アメリカ・カナダ滞在記

榎本てる子

私は、特別研究期間の6月より、サンフランシスコにあるサンフランシスコ神学校（San Francisco Theological Seminary）で Doctor of Ministry 取得のためのコースワークを受講するため6週間滞在し、その後、古い友人を訪ねてトロントの旅を楽しんだ。

私のコースは、牧会に出ていった人たちが戻ってきて、自分の現場に基づいた論文を書いていくというコースだ。面白いのは、日本の実践分野の論文ではみかけないアクションリサーチを用いた論文の書き方で、自分の課題を文献研究だけではなく、プロジェクトも必ず入れて分析するという方法で論文を仕上げていく方法である。これからの実践分野の論文は、やはり実践の現場経験をふまえて書いていく方法を日本でも出来るといいなあと思っ帰ってきた。

授業を3つ取った。集中講座で一科目が2週間、毎日3時間。リーディングと課題提出とレポートと本当によく勉強させる。授業のスタイルも教授の話だけではなく、学生一人一人が発言し、意見を交換する。アメリカの学生は本当によくしゃべる。先生が一言何か言うたびに、



大学の校舎-ハリーポッター風

自分の知っていることを話しだす学生もいて、内心、ちょっと黙ってほしいなと思うようなたいしたことない話も、先生は、決して否定せず、聴いて、議論に持っていく方法はうまいな〜と思った。



ナラティブ神学を担当したジェリー、牧師、先生、ユング派のサイコセラピスト。隣は、アフリカンアメリカンの教会の牧師で、黒人の教会における DV について啓発を教会で行っている。エディーマーフィ風

サンフランシスコでは、ホーリネスの日本人教会に何度か行った。信者さんがとても暖かく、アメリカでの苦労の中で信仰を持ちながら力強く生きている姿に感動。近くにあるコミュニティーカレッジに来ている日本人留学生に声をかけ、日本料理を振る舞い、こまめにケアをしている教会員の人たちの働きに驚いた。アメリカ留学で多くの愛を受け神様を知った若者が、日本に帰国して70%が教会にいかなくなる話を聞き、なんでだろう？なんでだろう？と……。あの留学生の若者たちに親身になって走り回っているあの愛を大切にしないとイケないかな？と思った。来年から、新日系人一世の信仰についてもっと学ぶ機会を持つと思っている。



サンフランシスコで薬物依存からの回復プログラムに参加している人が働くレストラン。ジェラルシー・ストリート レストラン

カナダは、かれこれ30年前のカナダ留学中の寮で一番仲良かった友達の4人のうちの2人を訪問できた。全く日本人がいない大学、英語もあまりわからないのに留学し、寂しくて孤独な日々を救ってくれたのが、この友人たち。アンは、日本から一人で留学している私がクリスマスシーズンは特に寂しいだろうとあって、毎年自分の家族のクリスマスに彼女の家の別荘に呼んでくれ、暖かいクリスマスを与えてくれた。



Christmas is the time to love (クリスマスは愛の時) という歌があるが、まさにそのことを感じさせてくれた友人だ。孤独でたまらない時に、差し出された友人たちの愛を通して私も、サンフランシスコの日本人留学生のように「神様の愛」を感じたのは確かだ。そしてその私が、今ここにいる。なにげない気遣い、相手の立場で必要なことを自分が出来る範囲でしてくれたカナダの友人たちの生き方が今の私の生き方に繋がっているように思う。いくら離れていても、心で繋がっている友はやっぱりかわらないな！と思った。神様の愛を実生活で分か合う人たちに出会い、元気をもらったかな！